

第40回 C-Bioセミナー

Plant-microbe interactions: hormones and the art of self-control

植物と微生物の相互作用：

植物ホルモンと巧妙な自己制御

日時：2016年7月8日（金）13：30～

場所：ゲノミクス棟2階 セミナー室

講師：タスマニア大学 上級講師

Eloise Foo博士



植物は有益なそして有害な微生物と常に相互作用をしています。特に地下部では、共生菌である菌根菌および根粒菌（マメ科植物）との相互作用は、植物にとって極めて重要です。同時に、各種の植物病原菌からの防御も必要です。このような微生物との相互作用に関わる各種の植物ホルモンと植物の巧妙な自己制御について、Foo博士の研究成果を含めた最近の話題を紹介して頂きます。

Eloise Foo博士は、オーストラリアのタスマニア大学の上級講師（准教授に相当）で、将来有望な若手研究者としてオーストラリア研究会議（ARC）のフューチャーフェローに選ばれています。

Foo博士は、クイーンズランド大学のBeveridge教授の研究室で植物地上部の枝分かれ制御における植物ホルモンの相互作用についての研究によって博士号を取得された後、タスマニア大学でポスドク、リサーチフェローを経て、昨年、現在のポジションに就かれました。

Foo博士は枝分かれ抑制ホルモンであるストリゴラクトンの発見以前から枝分かれの制御に関する研究を行っていたわけですが、その他にも光に対する植物の反応や、植物と微生物の相互作用についても多くの研究成果を挙げられています。特に、植物と根粒菌の相互作用にストリゴラクトンが関与していることを明らかにされ、さらに、植物の栄養獲得戦略におけるストリゴラクトンの役割についても新知見を報告されています。今回は、JSPSの招へい研究者として約1ヶ月ほど日本に滞在することとなりました。その間、米山研究室で根粒菌および菌根菌共生と植物栄養、そしてストリゴラクトンとの関連性について実験を行う予定です。

お問い合わせ：バイオサイエンス教育研究センター c-bio@cc.utsunomiya-u.ac.jp